

課題発掘対話 (第10回：介護分野)

- 居宅サービスの生産性向上 -

モデレーター

公立大学法人埼玉県立大学

吉田 俊之

居宅サービスの需要は拡大

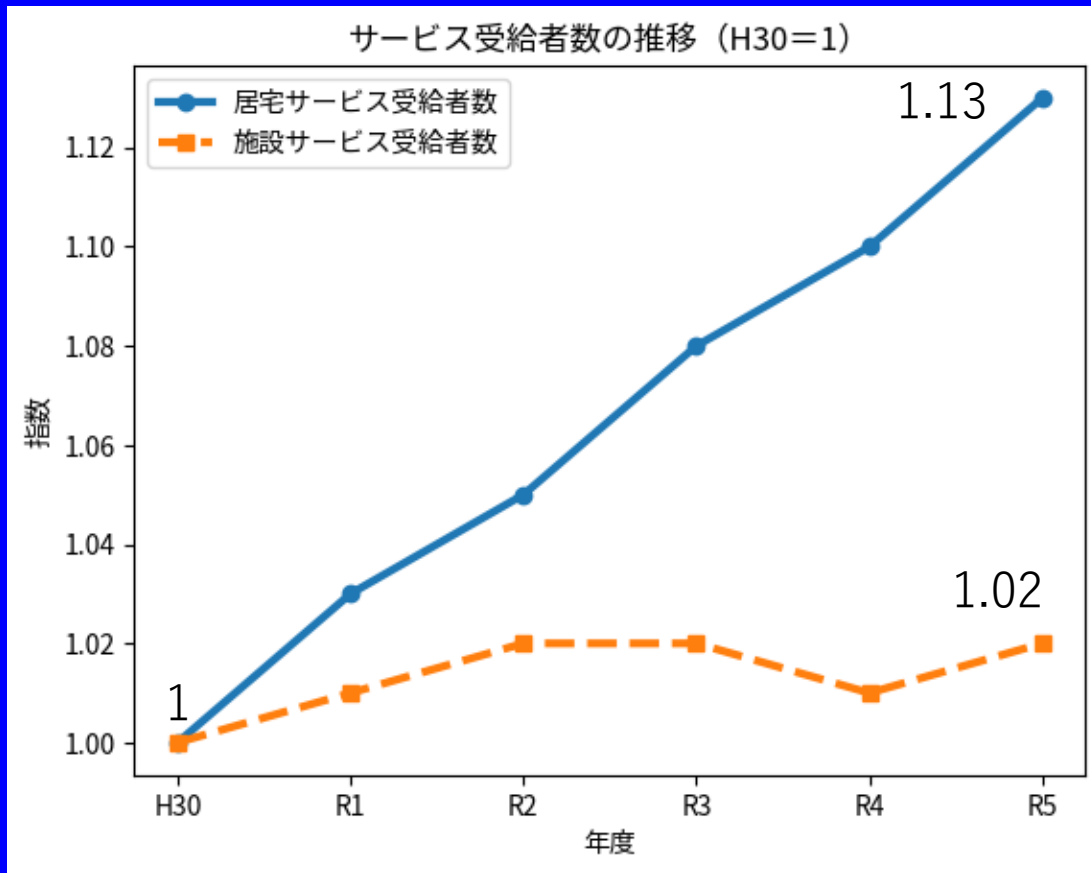


図1 サービス受給者数の推移 (H30=1)

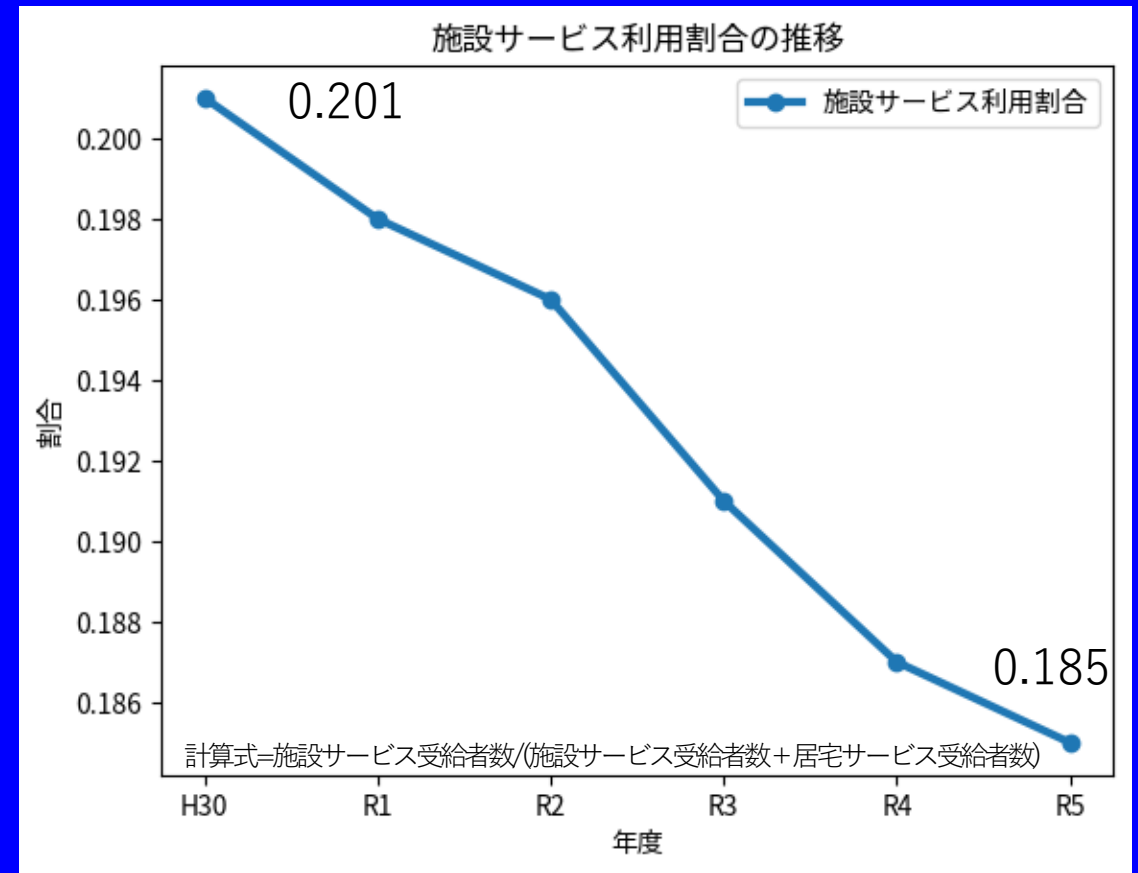


図2 施設サービス利用者割合の推移

出所：図はいずれも介護保険事業状況報告に基づき吉田俊之が作成した。

居宅系サービスの介護テクノロジー等の導入割合は 施設系サービスと比較し低い水準にある

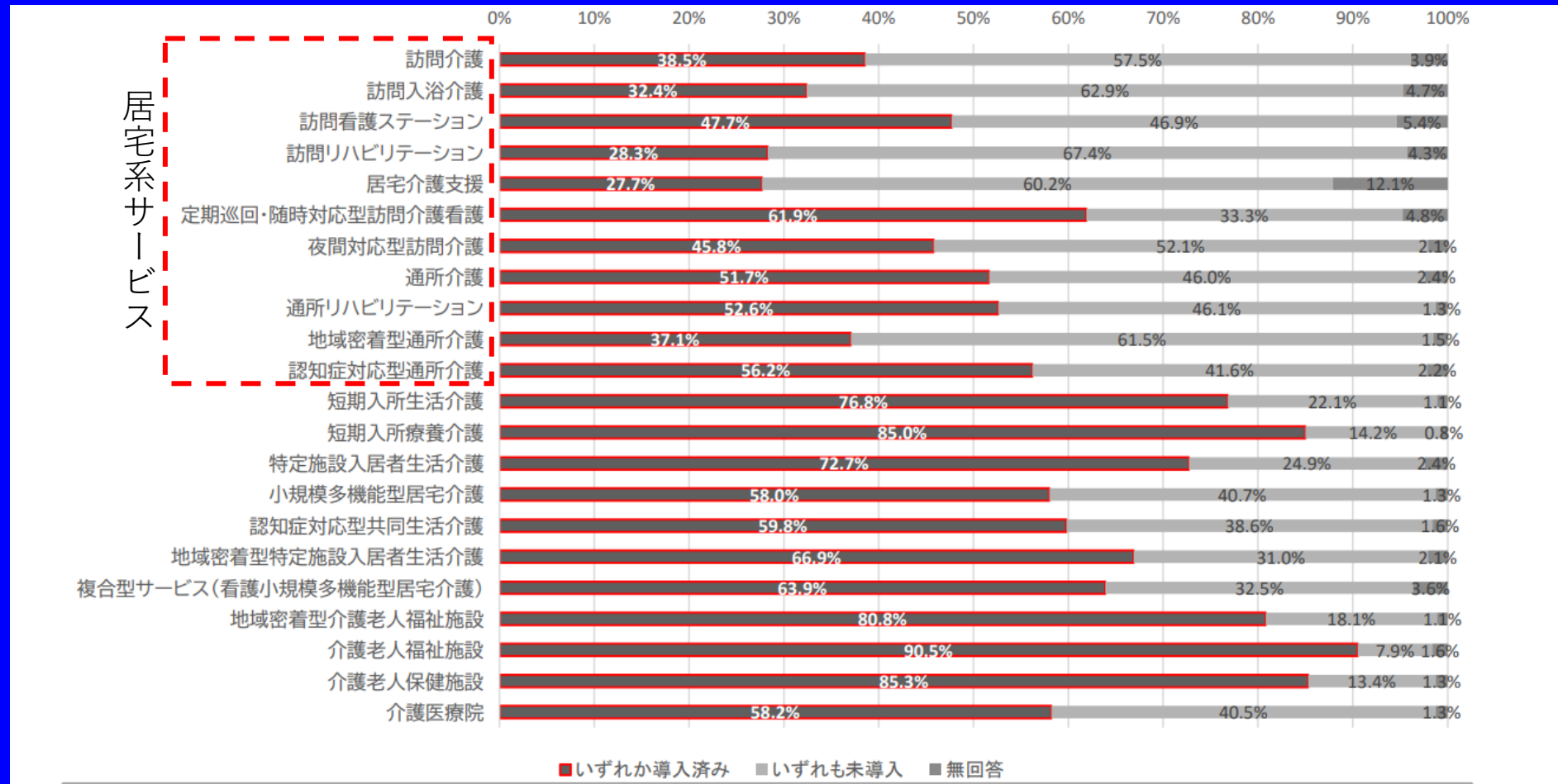


図3 サービス別の介護テクノロジーの導入概況

出所：図は第32回社会保障審議会介護給付費分科会介護報酬改定検証・研究委員会より抜粋した。
点線枠と「居宅系サービス」の表記は筆者による追記である。

居宅サービスの業務構造の特徴

表1 居宅サービスの業務構造の特徴（施設サービスとの比較）

| 比較項目 | 施設サービス | 居宅サービス (訪問系を中心に) |
|-------|--|---|
| 空間・環境 | <ul style="list-style-type: none">□ 近接、共有スペース□ 均質な住環境 | <ul style="list-style-type: none">□ 点在する現場（移動が発生）□ 多様な個別環境（利用者宅） |
| 情報の管理 | <ul style="list-style-type: none">□ 対面による即時共有□ リアルタイムな連携 | <ul style="list-style-type: none">□ 個人依存の情報管理□ 帰所後に記録作業が集中 |
| 利用者接点 | <ul style="list-style-type: none">□ 「職員全員」が本人を熟知□ 多角的な視点で支援・見守り | <ul style="list-style-type: none">□ 担当者のみが状況を把握□ 他職員との接点が極めて希薄 |
| 判断の形態 | <ul style="list-style-type: none">□ チームによる即時相談□ 相互補完が比較的容易 | <ul style="list-style-type: none">□ 現場での単独判断□ 属人化しやすい構造 |

出所：表は吉田俊之が作成した。

生産性に関連する居宅サービスの特殊性 (4つの断絶)

1. 空間の断絶

1. 利用者宅が分散
2. 移動時間の発生

2. 情報の断絶

- ✓ 多職種・多事業所で共有困難
- ✓ さまざまな場所で情報管理

3. 時間の断絶

- ✓ 観察（情報収集）と記録の分離
- ✓ 帰所後に集中する記録作業

4. チームの断絶

- ✓ シフトによる流動性
- ✓ 連絡調整タイミングの取りにくさ
- ✓ 判断の属人化

生産性の制約は現場の努力ではなく「業務構造」から生まれる

再定義：介護の本質は「ケア判断の知的生産」

介護の生産性
「ケア判断」の知的生産



ケア判断の質が価値

- 専門評価
- 本人らしさ（好み・文脈）
- 共有される情報



情報の「収集・共有・更新」を「仕組み」で管理

テクノロジーは「断絶」をどう越えるか

表2 居宅サービスの抱える生産性課題とテクノロジーの組み合わせ例

| 4つの断絶 | テクノロジー | 機能 |
|-------|-------------|---|
| 情報 | ICT | 記録のリアルタイム共有／多職種間の情報連携／ 記録の標準化 |
| 時間 | モバイル ICT | 現場での記録／音声入力／自動入力 |
| 空間 | デジタル 連携 | 遠隔指示（スマートグラス）／オンライン連携／ センサー・ロボット活用 |
| チーム | データ 共有 | 状況の可視化／判断支援／引き続きの高度化／ 事業所間のデータ連携システム |

出所：表は吉田俊之が作成した。

テクノロジーは断絶を越えケア判断を支える基盤

ロボティクス技術の役割

- 身体介助の負担軽減

1. 移乗支援

2. 移動支援

3. 見守り



心理的・身体的な負担の軽減



職員の時間の創出／余裕をもって利用者に向き合う



ケア判断の質の高まり



本日の論点 1/2

(課題深掘りの視点)

◆ 事業の生産性向上をどう実践するか (サービス・事業レベル)

① 情報共有の基盤をどう整備するか

例：多職種・多事業所間データ連携／記録の標準化／リアルタイム共有

② 現場での情報入力をどう変えるか

例：モバイル記録／音声入力／自動入力／記録の負担軽減

③ ケア判断を支えるデータとは何か

例：情報の可視化／判断支援／データ標準

④ テクノロジーは在宅ケアの質をどう高めるか

例：ICT／センサー／ロボティクス／福祉用具・機器の高度化

本日の論点 2/2

(課題深掘りの視点)

◆ 事業の生産性向上を促す経営アプローチ (経営レベル)

① 協働化・広域連携の経営手法をどのように生かすか

例：経営者交流／合同研修／人事交流／物品・資材の共同一括購入／融資
／ケアマネジャーの負担構造の見直し (業務の切り分け)

② 人材育成投資と人材配置戦略をどのように考えるか

◆ 経済支援・基盤整備・見える化／モニタリング (政策レベル)

① テクノロジーの導入・運転にかかる費用負担をどう考えるか

例：介護報酬／各種のテクノロジー導入補助金制度

② どのようにしてテクノロジーの加速的普及を軌道に乗せるか

例：ダッシュボードの活用／プラットフォーム・相談窓口／開発人材育成

介護現場の生産性向上に関するダッシュボード (政策レベルの見える化/モニタリング)

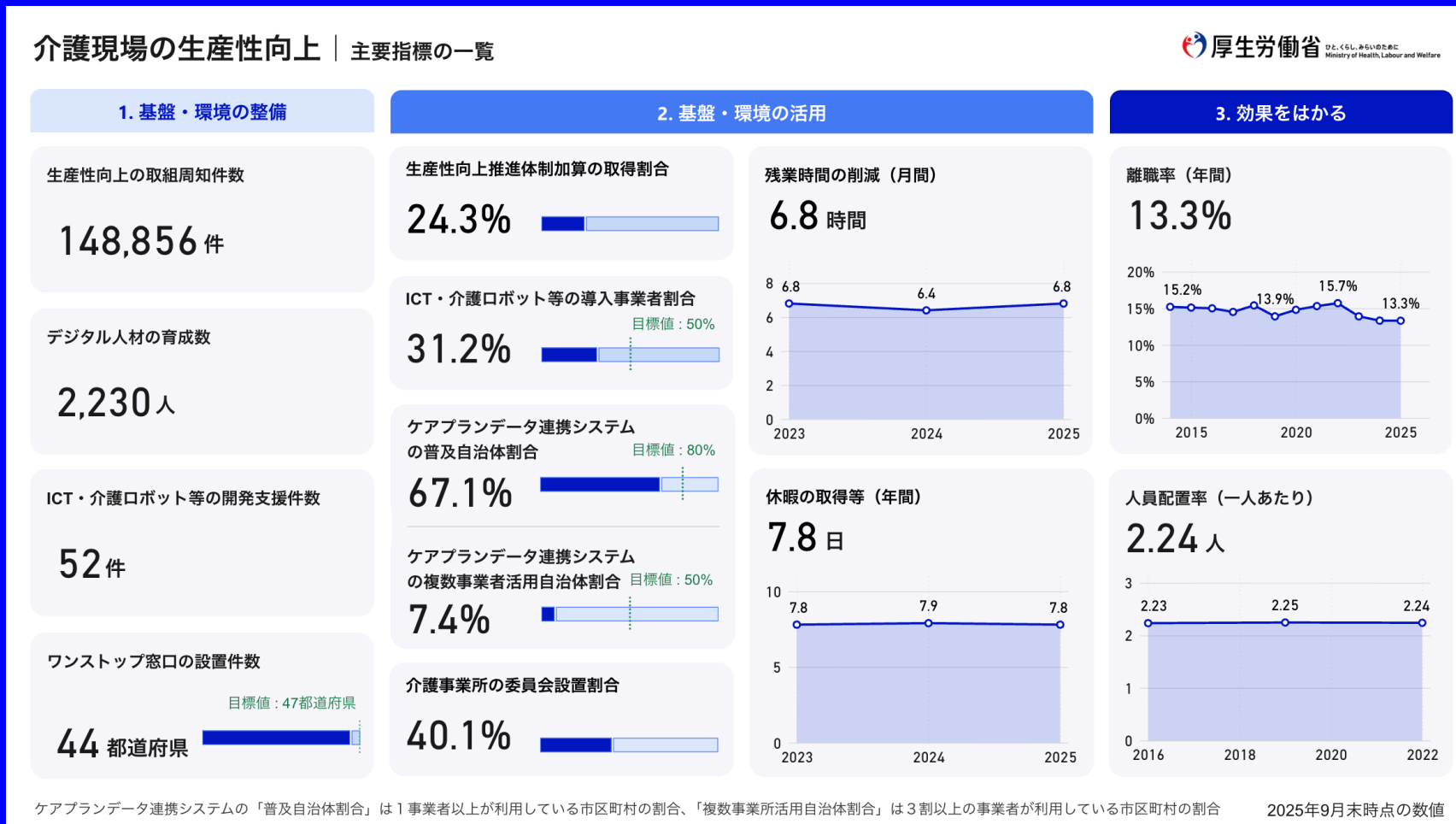
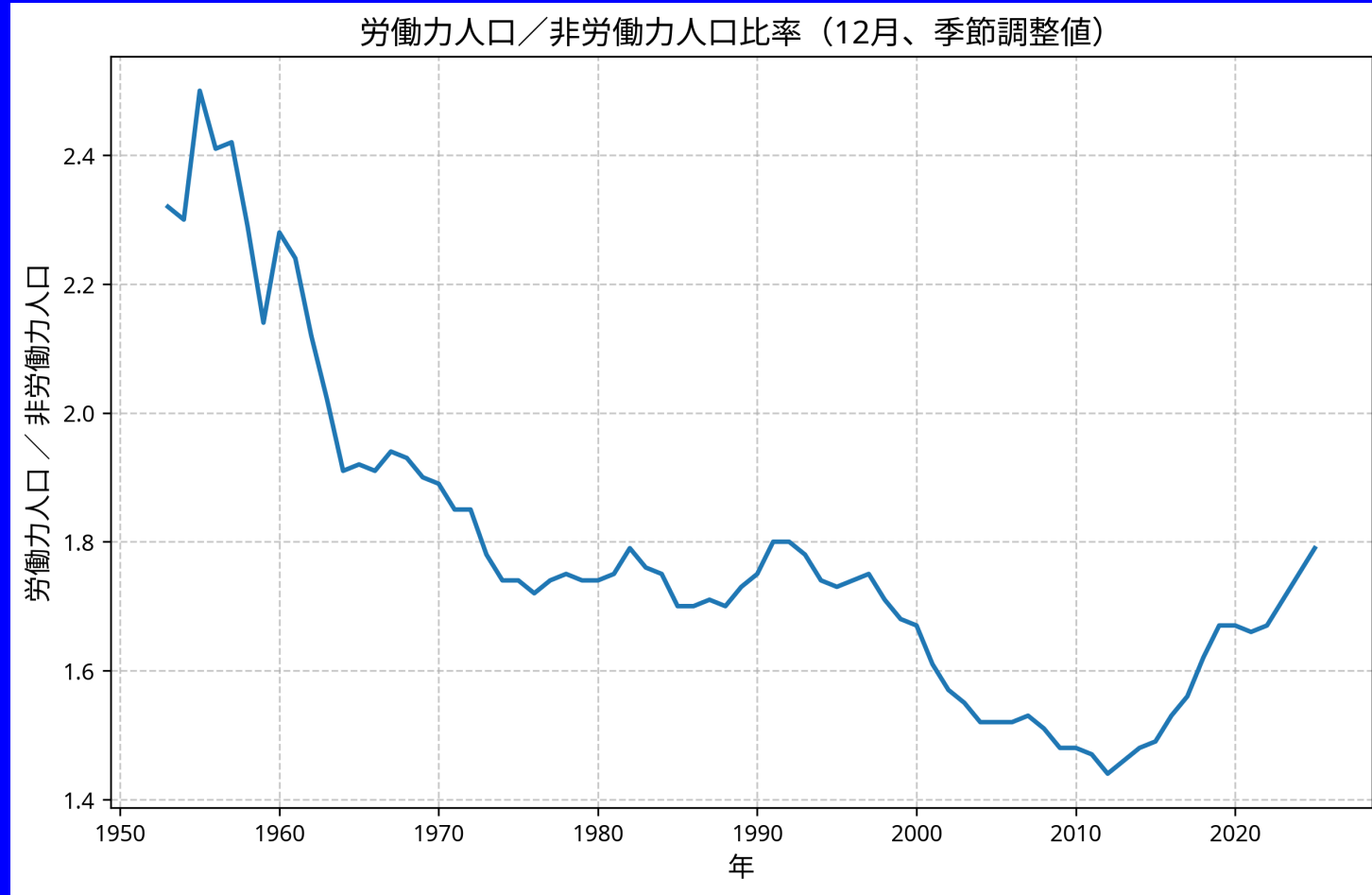


図4 介護現場の生産性向上 (主要指標の一覧)

出所:図はデジタル庁「介護現場の生産性向上に関するダッシュボード」より引用した。

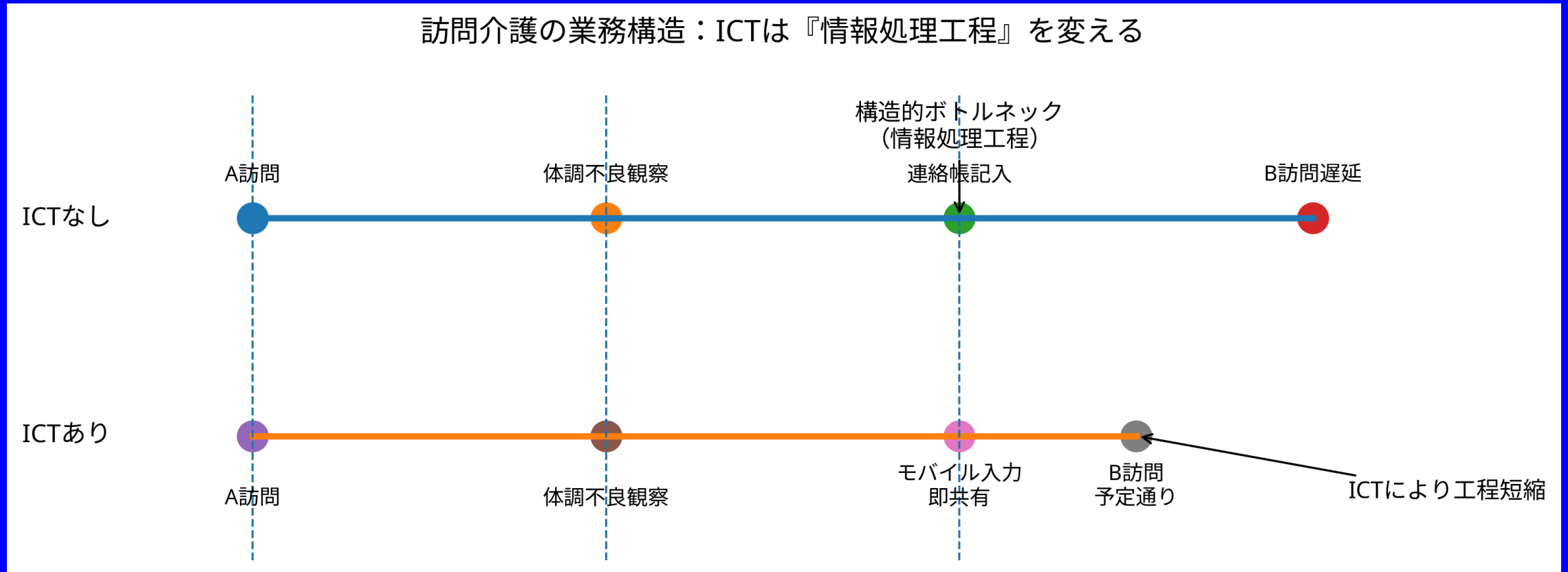
見える化を現場改善と政策改善にどう接続するか

働いている人は相対的に増加傾向



図a 労働力／非労働力人口比率の推移

ICT活用による訪問サービス工程の改善イメージ (体調不良を観察しても次の訪問を遅延させない)



図b 訪問介護の業務構造とICT活用のイメージ例

出所：図は吉田俊之が作成した。

ICTはケアを代替するのではなく「断絶」を埋める

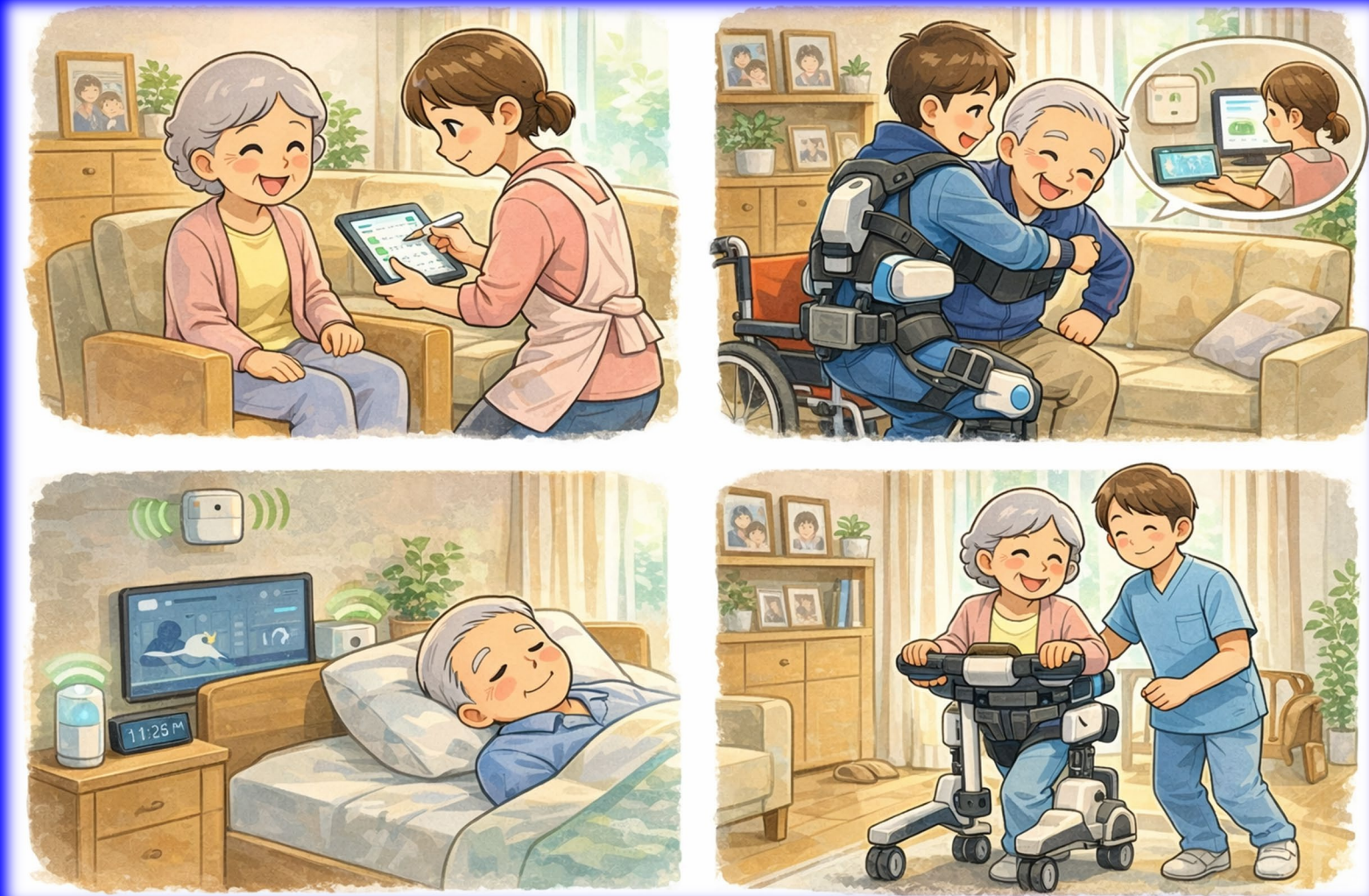
ICT・介護ロボット等の導入事業者割合 (分類「訪問」)



図c 介護現場の生産性向上（都道府県別の状況、分類「訪問」）

出所：図はデジタル庁「介護現場の生産性向上に関するダッシュボード」より引用した。

ユースケース：テクノロジーを活用する在宅ケア（イメージ）



出所：このイラストはAI生成アプリにて吉田俊之が作成した。